| 順位 | 氏名（議席） | 発　言　の　要　旨 | 答弁者 |
|---|---|---|---|
| １１ | 川窪　吉男（３０） | １．コロナ禍の中で児童生徒の小さな「ＳＯＳ」を見逃すな<br>　新型コロナウイルス発生から一年半がたちました。全国で緊急事態宣言や感染予防対策が取られ減少傾向にあるものの、終息には至っておりません。７月23日からは2020東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定であります。こうした中、３月の新聞やテレビ報道を見て驚愕しました。それは、新型コロナウイルスの影響が長期化する中で、昨年、児童生徒の自殺は後半から増加が顕著になったというものでした。自粛期間中は友達とも遊べず、人間関係を深める学校行事も中止となるケースが多く、学校や家庭で居場所を失い、孤独感を深めているのではないかと推察します。警察庁、厚生労働省の統計によると、新型コロナウイルス発生以降、昨年一年間に自殺した児童生徒数は499人で、小学生が14人、中学生が146人、高校生が339人とあり前年と比較して４割増加、そのうち、女子中高生は約200人で前年度対比は約２倍となっています。統計が残っている1980年以降で最多になっているとの報告でした。生きることに耐えかね、自らの命を絶つ子供が後を絶たない深刻な事態だとも言っています。特に高校生では60人増えているのが目立ちます。昨年の県内の19歳以下の犠牲者は20人との報告です。コロナ禍の中で生活環境の変化や、進路の不安が拍車をかけたりすることも原因の一つに挙げています。また、大人の家庭不和や経済面での不安なども、子供の悩みの一つと分析しています。こうした中、静岡県教職員組合がコロナ禍の影響に関する実態調査をしたところ、不登校が増えたと回答した学校が25.4％とのことでした。子供達の身近な存在である先生が児童生徒の小さなＳＯＳをいち早く察知し、小さくも重要な変化に気づき、保護者と連携して個々の対応をする組織体制を整え、組織を強化することが児童生徒の尊い命を守る一つの手段であると思います。<br>　そこでお伺いいたします。<br>(1) 本市ではコロナ禍の影響も踏まえて、不登校の実態はどうなっていますか。<br>(2) 児童生徒が自ら命を絶つ現状をどうのように捉えていますか。<br>(3) この現状にどのような対策を取られていますか。 | 市長<br>及び<br>教育長<br>担当部長 |